



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

待降節 第4主日 B年(2023年12月24日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：サムエル記下 7章1—5、8b—11、16節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 16章25—27節

福音朗読：ルカによる福音書 1章26—38節

マリアさまへの特別なあいさつ

三つの朗読から

第一朗読の9節のことば、「あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて」から、神が共にいてくださる神であることが分かります。

第二朗読の「秘められた計画」(25節)は、その、共にいてくださる神が、救いの実現のための計画、デザインをお持ちになっていたことを示しています。

福音朗読にある「おめでとう」(28節)は単なる挨拶のことばではないでしょう。秘められた計画が実現していく上で、マリアが選ばれます。マリアへの第一声は祝福のことばなのです。こうして、神は人間を祝福しながら、ご自分の救いの想いを実現していくのです。マリアは「お言葉どおり、この身に成りますように」(38節)と答えます。語りかける神、神のことばに対して、マリアは受諾します。この受諾がなければ救いのドラマは始まりませんでした。

説教：マリアさまへの特別なあいさつ

『ルカによる福音書』1章5節—2章21節は「イエスの誕生物語」ですが、1章5—38節で、天使ガブリエルによる二つの告知があります。一つはザカリアに対する告知、もう一つはマリアに対する告知です。そして、39—56節ではエリザベト訪問の際にマリアの賛歌が、1章57節—2章21節では告知に対する二つの誕生、ヨハネとイエスの誕生が描かれていきます。ギリシア語の原文に注目しながら、この特別なあいさつを読んでみましょう。

28節：おめでとう

原文はカイロー。挨拶の言葉ですが、喜びを表します(ルカ6章23節、15章5節など)。あまり意味を持たない単純な挨拶の言葉ではなく、喜びを表す^{あらわ}呼びかけの言葉と理解したらよいでしょう。フランシスコ会訳は「喜びなさい恵まれた方よ」となっています。

28節：恵まれた方

原文はカトリオー。新約聖書ではこと、エフェ1章6節のみに登場します。

28節：主はあなたと共におられる

神が共にいるのは特別な人だけです。イサク(創26章24節)、モーセ(出3章15節)、ギデオン(士師6章12節)、ダビデ(サム下7章2節)、パウロ(使18章10節)など。

ザカリアにも天使は挨拶をしますが、「おめでとう」も、「主が共にいる」もありませんでした。ただ「恐れることはない」^{おそ}だけです(1章13節)。羊飼いたちも同様です(2章10節)。天使はマリアに特別な挨拶をするのです。

29節：考え込んだ

原文はディエロギゾーマイ。よく考えるの意味ですが、あちらこちらから^{たかくてき}多角的に考えるというニュアンスがあります。「戸惑い」^{とまど}と訳されているのは、原文はディアタラッソーですが、これはかき乱される、^{みだ}困惑させられる、^{こんわく}狼狽させられるという意味です。フランシスコ会訳は「胸騒ぎがして」と訳しています。マリアの反応からも天使の言葉が特別な挨拶であったことがわかります。^{はんのう}

34節：どうして

「どのようにして」という意味で考えたらよいでしょう。

35節：降り

原文はエペルコマイ。「上に」を表わすエピと「来る、やって来る」を表わすエルコマイ^{むす}が結びついた動詞です。つまり、人の上にやって来て、そこにとどまり、その人のうちに作用することを意味します。使徒言行録1章8節では同じ言葉で、「あなたがたの上に^{きょう}聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける」とあります。「聖霊が降る」ことは「力を受ける」ことに他ならないのでしょう。^{くだ}

35節：包む

原文はエピスキアゾウ。雲に包まれること(マタ17章5節、ルカ9章34節)、だれかに^{かげ}影がかかることを意味します。ギリシア語訳旧約聖書(70人訳)では『詩編』91編4節で「主は、ご自分の^{はね}羽で、あなたをおおわれる」と、この単語を使いますし、『出エジプト記』40章35節でも「^{かいけん}栄光の雲が^{てんまく}会見の天幕を^{おお}覆ったために、モーセは会見の天幕に入ることができなかった。」とあります。包まれる、覆われることで神の力、神の^{ひご}庇護の中にあることを意味しています。